

「はむらの道徳科授業指針」子どもの視点⑤

認め合い、高め合う雰囲気がある

○ 学級経営との相関性

子どもが安心して自分の感じ方や考え方を表現できる学級の雰囲気を築くことで、学習の効果はより一層高まります。また、道徳科における子ども同士の心の交流が、学級の間関係をより確かなものにします。

○ 日々のコミュニケーション重視

ものの見方や考え方は、人それぞれ異なります。そのため、話し言葉や書き言葉によって違いを理解し、尊重し合うことが必要です。

コミュニケーションの大切さを、日頃の学習や生活の中で実感させることが重要です。

○ 国語科の学習が苦手でも……

道徳科では、上手に言い表せなくても、文章にできなくても、道徳的価値に照らして自分を見つめ、考えを深めることが重要であることを、発達段階に応じて理解させたいものです。

例えば、子どもに教材を音読させず教師が読む、子どものつぶやきやたった数文字の書き言葉を取り上げて価値付けるなど、国語が苦手な子どもたちが安心して学べる工夫が求められます。



人の価値

理論物理学者 アルベルト・アインシュタイン

人の価値とは、その人が得たものではなく、その人が与えたもので測られる。

出典：「賢人たちに学ぶ 道を開く言葉」本田季伸著（かんき出版）

※ 自らの力を発揮して人に与えることは、真の幸せにつながると考えます。